



TITLE:

# 前立腺肥大症のProgestogen療法

AUTHOR(S):

中山, 健; 岡元, 健一郎

---

CITATION:

中山, 健 ...[et al]. 前立腺肥大症のProgestogen療法. 泌尿器科紀要 1970, 16(9): 558-560

ISSUE DATE:

1970-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/121156>

RIGHT:

## 前立腺肥大症の Progesterone 療法

鹿児島大学医学部泌尿器科学教室（主任：岡元健一郎教授）

中 山 健  
岡 元 健 一 郎PROGESTOGEN THERAPY OF BENIGN PROSTATIC  
HYPERTROPHY

Ken NAKAYAMA and Kenichiro OKAMOTO

*From the Department of Urology, Kagoshima University School of Medicine  
(Director: Prof. K. Okamoto)*

SH 582 (17 $\alpha$ -hydroxy-19-nor-progesterone caproate) was administered to 15 patients of benign prostatic hypertrophy. The total doses ranged from 400 to 3200 mg. Subjective symptoms, especially residual feeling, were relieved in all the cases. Although several objective examinations were carried out, objective findings did not show remarkable changes. Side effect was not observed in any cases.

## は し が き

前立腺肥大症は泌尿器科領域において最近本邦においても欧米なみの増加を示している老人病の一つとして、その予防ならびに治療が問題となっている。根治的療法としては、前立腺被膜下摘除術または経尿道的な前立腺切除術が唯一のものであり、非観血的療法としては、みるべき薬剤のないのが現状である。

今回ドイツシェーリング株式会社にて開発された17 $\alpha$ -hydroxy-19-nor-progesterone caproate (以下SH 582 と略す) について別報のごとき基礎的小実験を行ない、あわせて本薬剤の前立腺肥大症に対する臨床効果を検討したので報告する。

## 対象および投与方法

1968年10月より1969年6月までに当科外来に来院し、前立腺肥大症と診断された者のうち、Table 1に示すとき15名を対象とした。年齢は58才より77才にわたり、そのほとんどが排尿困難を主訴としたものである。

投与方法はSH 582を1回100mg 週2回で計10回と、1回200mg 週1回で計5回をおのおの1クールとして筋注した。

## 臨床成績と副作用

前立腺触診所見においてはほとんどがみるべき変化をみなかったが、自覚症状は大多数が著しく改善され、残尿も改善された。問題となる副作用を認めた者はなく、施行全例について好結果を得た。自覚症状改善発現時期は比較的早期のようである。

成績をまとめてみるとTable 2のごとく全例に自覚症状の改善をみた。他覚症状への影響としては前立腺触診所見、尿波測定所見、膀胱内圧測定所見、尿道膀胱造影所見いずれもほとんどが投与前後にみるべき変化をみなかったが、残尿については測定した全例に改善をみた。

## む す び

1) 前立腺肥大症患者15例に対して17 $\alpha$ -hydroxy-19-nor-progesterone caproateを投与し、臨床的な自覚症状を検討した結果、他覚症状の改善、とくに残尿感の軽減を全例にみた。

2) 問題となる副作用はみられなかった。

3) 前立腺肥大症の保存的療剤として、本剤は価値があると思われる。

4) 今回投与量は最小400~3200mgであったが、基礎的小実験からもさらに大量投与の必要が考えられ

Table 1 症 例 と 成 績

症 例	年 令	投 与 前 所 見			SH 582 投与量 (mg)×(回数)	投 与 後 所 見			副 作用	効 果	自覚症 状改善 回数	備 考
		症 状	前立腺 触診所見	残 尿 (ml)		症 状	前立腺 触診所見	残 尿 (ml)				
1	64	軽度夜間頻尿	超鶏卵大	0	100×15	やや軽快	軽度縮小	0	(一)	やや有効	10	軽度尿失禁のみ 残す  性機能も改善さ る 排尿痛のみ持続  頻尿のみ持続
2	77	排尿困難，尿閉，尿失禁，頻尿	〃	1200	100×9	軽 快	不 変	200	〃	有 効	5	
3	76	尿閉，排尿困難，尿失禁，頻尿	超鶏卵大	160	100×9	〃	〃	92	〃	〃	4	
4	72	排尿困難，残尿感，頻尿	鶏 卵 大	30	100×10	〃	〃	10	〃	〃	2	
5	77	排尿困難，頻尿，排尿痛	超鶏卵大	?	100×20	やや軽快	〃	?	〃	やや有効	8	
6	73	頻尿，残尿感，排尿感	やや増大	5	100×4	軽 快	〃	0	〃	有 効	1	
7	74	排尿困難，頻尿，残尿感	小リンゴ大	100	100×10	やや軽快	〃	40	〃	やや有効	5	
8	63	排尿困難，頻尿，残尿感	やや増大	60	100×10	〃	〃	45	〃	〃	9	
9	66	排尿困難	鶏 卵 大	?	100×5	軽 快	〃	?	〃	有 効	2	
10	58	軽度排尿困難，尿道異和感，排尿痛	〃	180	200×7	〃	〃	80	〃	〃	1	
11	75	頻尿，排尿痛	〃	50	200×16	〃	〃	30	〃	〃	3	
12	69	血尿，排尿痛	〃	20	200×10	〃	〃	0	〃	〃	2	
13	74	排尿困難	〃	60	200×10	〃	〃	50	〃	〃	2	
14	69	排尿困難，残尿感	小鶏卵大	30	200×8	〃	〃	6	〃	〃	2	
15	65	軽度排尿困難	〃	0	200×5	やや軽快	軽度縮小	0	〃	やや有効	3	

Table 2 成績のまとめ

A 自覚症状への影響	施行症例数 (15)
イ 軽 快 (10)	
ロ やや軽快 (5)	
ハ 不 変 (0)	
B 他覚症状への影響	
1. 触診所見	施行症例数 (15)
イ 不 変 (13)	
ロ 縮 小 (2)	
2. 残 尿	施行症例数 (11)
イ 不 変 (0)	
ロ 減 少 (10)	
ハ 消 失 (1)	
3. 尿波測定所見	施行症例数 (4)
イ 改 善 (0)	
ロ 不 変 (4)	
4. 膀胱内圧測定所見	施行症例数 (1)
イ 改 善 (0)	
ロ 不 変 (1)	
5. 尿道膀胱造影所見	施行症例数 (5)
イ 改 善 (0)	
ロ 不 変 (5)	

るので現在検討中であるが、その成績は別の機会に発表する予定である。

(本剤の提供を受けた日本シェーリング株式会社に感謝する。なお、本論文の要旨は第21回西日本泌尿器科連合地方会において発表した。)

### 参 考 文 献

- 1) Paul, E. Lebech and Erik, L. Nordentoft :  
Acta Obstetricia et Gynecologica Scandinavica, 46: Supplement 9: 25-38, 1967.
- 2) Detailed Information from Schering A. G.  
Berlin.
- 3) Geller, J.: J. A. M. A., 193 (2): 121~128,  
1965.
- 4) 村上旭・ほか：日内分泌誌, 44(8): 952~959,  
1968.

(1970年6月29日特別掲載受付)